

令和6年度

城ノ内中等教育学校（前期課程）
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒が主体的・協働的に学び、生徒の個性や創造性を伸ばす授業の実践
- 科学的な思考力・表現力、読解力を育む授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
仁木 将之 (進路指導課長)	横田恵理子(校長)、角由佳(教頭)、鈴江涼子(教務課長)、田中靖江(企画・研究課長、英語科主任)、仲田一恵(3学年主任、国語科主任)、篠原貴道(第2学年主任、数学科主任)、東條良栄(第1学年主任)、石田有佳里(理科主任)、坂田雅也(社会科主任)

校長

横田 恵理子

【各校の取組状況の把握について】

○授業参観の報告、学力推移調査、学校評価アンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握・検証・共有を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については、習得率も高く、与えられた課題にもまじめに取り組むことのできる生徒が多い。 ●文章や資料を正確に読み取り、身に付けた知識等と関連付けることに課題がある。	・知識・技能を確実に身につけ、既習の知識・技能と関連付けて活用することができる。 ・長い文章やグラフ・表などの資料を正確に読み取り、自らの知識と関連付けて考察することができる。	・生徒に習得してほしい知識・技能を明確にして、授業の計画を行い、それを定期考査で確認し、定着を図る。 ・文章や資料の読み取りをもとに既習知識と関連付けて解答する考査問題を作成する。	生徒同士が説明し合う場面を設けて、本質的な理解につなげる。	・各教科において、資料の読み取りや知識・技能を活用した考査問題を作成できた。 ・各教科において、定期考査後の補習実施や課題を与えるなど、学習支援を行った。 ・ICTの学習コンテンツを活用して学習支援を行った。	・各教科において、後期課程と連携し、各年次で身につける知識・技能を明確化し、授業を組み立てる。 ・大学入試に向け、すべての生徒に前期課程段階における学習の基礎・基本を定着させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通して、自分の感想や考えを表現することができる。 ●他者の意見から、考えを深めたり、論理的に物事を説明したりすることを苦手に感じている生徒が多い。	・対話的な学びによって、自己とは異なる意見を知ること、自己の考えを相対化し再構成することができる。 ・学習活動の目的・目標を明確に理解し、各教科の見方・考え方を働かせて課題をつかみ、自分の考えをわかりやすく論理的に表現することができる。	・すべての教科でペア学習やグループ学習の機会を取り入れ、言語活動を充実させるとともに、習得した知識・技能を実際に使用する場面を増やす。 ・各教科の見方・考え方を働かせて考察したり説明したりする活動の機会を設定する。	要約から自分の考えをまとめる活動に発展させる。	・教育活動全体を通して、タブレット等のICTを活用し、協働する場面や自分の考えをまとめて表現する活動を充実させることができた。	・データを選択・分析し、それを根拠として自分の考えをまとめる活動を取り入れた学習を充実させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す生徒の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命に向かい、与えられた課題にも熱心に取り組む、新しい知識の習得にも意欲的な生徒が多い。 ●自ら課題を発見・設定し、見通しをもって学習に取り組むことが苦手な生徒が多い。	・自主的に家庭学習に取り組む、学習時間が各学年の掲げる目標時間に達している。 目標時間 1年生:120分 目標時間 2年生:120分 目標時間 3年生:140分 ・見通しを立てて学習に臨み、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組むことができる。	・学習実態調査を行い、生徒に自分自身の学習時間を振り返らせる。また、生徒との面談を通して、学習習慣の定着に向けてアドバイスを行う。 ・すべての教科や総合的な学習の時間において、課題解決型学習を取り入れる。	授業やテストで生徒が日常生活に結びつけた問題を取り組む機会を設ける。	・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫をすること」ができている・ややできていると回答した生徒が87.2%(全国学力学習状況調査) ・学習実態調査(年4回) 1年生:162分 2年生:181分 3年生:152分	・ICTの学習コンテンツ等を活用して、生徒の日々の学習状況を振り返らせ、面談等を通して学習習慣の定着につなげる。 ・生徒自らが見通しを持って学習や探究に取り組む場面を引き続き設けていく。

令和6年度 学力向上ロードマップ

